



慶光会だより

平成30年3月吉日発行 第94号

目次

ほっこり余暇活動・グループハウスひるぜんの生活.....P2

人権研修・利用者旅行.....P3

ワークひるぜん製麺屋 三座の紹介・お礼.....P4

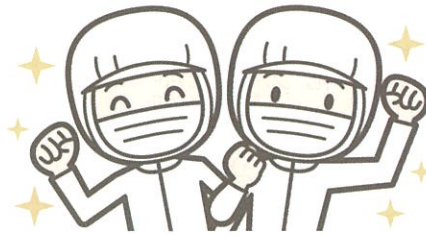


製麺屋三座これまで

ワークスひるぜんの製麺班は、現在のデイセンターひるぜんが使用している場所で、平成17年4月作業を開始しました。開始当初は蕎麦の製造販売を行い、徐々に生ラーメンの製造販売、オリジナル製法の冷凍うどん開発・販売など、事業を拡大していきましました。その中で建物の手狭となり、平成21年にワークスひるぜん横に工場を構え「製麺屋 三座(屋号)」として事業を進めています。「製麺屋 三座」は就労継続支援A型事業所として、利用者へ雇用契約を結び安定した賃金・作業量を確保しています。月によっては給料が10万円を超える方もあり、みなさんの作業意欲を高めています。



現在7名(男性6名、女性1名)が利用しています。作業内容は麺の製造を行った後の機械掃除、商品の検品、計量、袋詰め、圧着などがあります。利用者1人ひとりに役割があり、その役割を責任もっておこなうことで成長を重ね、とても頼りになる方が増えています。



最後に

色々な方に三座の麺を買っていただきありがとうございます。今後もみなさんへ選ばれる麺を作っていけるよう、利用者みなさんと共に歩んでいきたいと思っております。今後よろしくお願い致します。

製麺屋 三座 TEL 〇八六七〇六六四八三二

製品紹介

取扱商品：そば、蒜山焼そば、茶そば、そうめん、ラーメン、冷凍うどん

商品の中には蒜山産のそば粉を使用した生蕎麦、乾麺、半生そばなど色々な形態の商品を製造しています。それらを詰め合わせた御中元、御歳暮などのギフト商品も用意しています。お客様のニーズに合わせた商品販売製造が私たちの強みです。



ありがとうございました

・青木怜子 様

・みかもストア 様

・やまほうし 様

・(有)ドアーズ 様

・ライオンズクラブ 様



ワークスくらよし開所

平成29年10月1日、鳥取県倉吉市関金町に「ワークスくらよし」(就労継続支援B型、定員20名)が開所しました。

今まで当法人では「ワークスひるぜん」を中心に「労働をテーマに高い工賃の獲得を目指し、一定の成果を上げることができました。その結果、真庭市・蒜山地域以外からのニーズが増え、発達障害・精神障害の方の利用も増加傾向にあります。そのような現状の中、「ワークスひるぜん」だけの受け入れは難しくなり、新たな事業所「ワークスくらよし」を開所することとなりました。障害のある方の「経済的自立」を支え、「労働を通して得られる達成感や人とのつながりを通して創っていく人生の自律」が実現できるよう、「働く」に焦点をあて進んでいきます。

現在は定員20名の規模で運営していますが、今後は地域の過疎化や高齢化、地域産業の衰退による生活困窮者や社会の受け皿がなくなり、地域に貢献できる事業を展開していきたいと考えています。宜しくお願い致します。

管理者 笠原史郎

ほっこり余暇活動



ほっこりでは、現在9名の方が利用されています。高齢期でも元気な方が多く普段は作業を中心とした活動をしています。作業以外でも生活の豊かさを感じていただけるような活動も行っています。今回はその中から生花とお茶立て、陶芸について紹介します。生花とお茶立ては地域のボランティアの方にお願いしていただき行なっています。生花はポランティアの方と一緒にお手本として花を生け、その後は利用者それぞれが思い思いに自分で花を生けていきます。作品は事業所に展示したり、自宅の部屋に飾ったりされています。続いてお茶立てです。茶筌がお茶碗の底に着かないように混ぜるのが難しい方もいますが、自分で立てたお茶と茶菓子を一緒に食べる茶菓子が一層おいしく感じられました。陶芸は、萩山伝承館にてポランティアの方に作り方を教わりながら、花瓶やお茶碗・コップ・人形等を作りました。初めて陶芸体験でしたが、地元の知り合いの方や他の陶芸教室の方と交流もでき、笑顔の溢れる中で体験ができました。みなさんええのうで来たなあ「来てよかつたなあ」と言われ、楽しむことができたと感じています。それぞれ好きな事は違いますが、今後も作業だけではなく、自分らしさを表現できる活動を取り入れていきたいと思っています。



昨年開所したワークショップに、伊豆まにわのメンバーで初めて旅行へ行きました。ワークショップに伊豆まにわは就労に特化した事業所ということもあり、「会社の慰安旅行」をイメージした企画を組みました。

人権研修

さる1月13日、雨田信幸氏(きょうされん大阪支部事務局長)を講師にお招きしての人権研修が開催されました。

講演では、「津久井やまゆり園」の事件を振り返り、福祉職員である私たちが大切にしていかなければならないことは何かを考える機会となりました。雨田氏より事件の概要から事件が私たちに投げかけた問題についてお話されました。今回の事件の背景には、かつてのナチスのT4作戦や日本におけるハンセン病隔離政策にも通じる「優生思想」があるといわれています。事件を「なんてひどいことをしたんだ」と思うことはたやすいことです。そこから歩を進めて「なぜ今回の事件は起きてしまったのか?」「自分だったら?」を突き詰めて考えていくことが出発点だと教えていただきました。「かけがえない命」というのは、うわべだけのきれいごとであってはいけません。「お互いを受け止める共感の関係、つながりがはぐくまれる社会とはどうあるべきなのか」を考えていくことが大切だと再認識する機会となりました。



利用者旅行

今回は米子・皆生方面への日帰り旅行です。旅程は、各自のやりたいこと、見たい場所、買いたいものを自由に選んで行動してもらえ、自由に自由時間を多く設けました。各自のやりたいことは様々で、温泉に入る方もあれば、公園へ散歩に出かけられる方、お土産を買う方など、普段では見られないその人の趣向が見られ新たな発見をすることができました。夜には新年会を兼ねた宴会を行いました。その会も利用者の方が主役となり、乾杯の音頭から締めめの挨拶まで全てをみなさんに任せていただきました。



今回の旅行で日頃の疲れを癒すできたと思います。今後も参加者が楽しめる企画をみなさんと一緒に考えていきたいと思っています。



グループハウス ひるぜんの生活



グループハウスひるぜんの利用者は、アパート等を借りて地域の一人として生活しています。居室やトイレの掃除、衣類の洗濯、ゴミ出しなど食事作り以外のことは自分たちで役割を分担して行っています。また、住んでいる地域の清掃活動や行事にも参加しており、地域の方と関わる時間を大切にしたいと思っています。グループホームに住んでいる方のほとんどは平日仕事をし、休日は買い物に出掛けたり、仲の良い利用者同士で遊びに出掛けたりして自由に過ごしています。一人で日課や予定を組み立てる事が難しい利用者も生活しているため、職員から外出や映画鑑賞等の行事を提案し、休日の時間が有意義になるように工夫をしています。夕方世話人にその日あったことを報告したり、「飯を食へながら同じホームの方と談笑したりして、皆さんゆっくり過ごしています。



ボランテニア来所 (八景様・萩山ライオンズクラブ様)

今年度も八景様による食事提供と、萩山ライオンズクラブ様による餅つきが行われました。



この行事は萩山慶光園の恒例行事であり、毎年利用者の方が楽しみにしています。八景様による食事は、なかなか見ることのできないプロの料理人の調理姿を、目の前で見ながら料理を頂けることが魅力です。毎年違う料理を提供していただき、今年は何んな料理が食べられるのか楽しみにしている方が多いです。今年にはチラシ寿司と焼きそば・唐揚げ等!みんなの大好物ばかりで、「おいしい!」「笑顔が絶えない食事会となりました。



餅つきは、萩山ライオンズクラブ様と利用者と一緒に杵をもち餅をつくことが魅力です。みんな「よいしょ」と掛け声をかけながら餅をつき、楽しい雰囲気で行うことができました。つきたてのお餅を頂くのは格別です。この行事は地域の皆様のご協力により行えるものです。これからもこのような機会を大切にしていきたいと思っております。ご協力頂き誠にありがとうございました。